

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 22 年 12 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

^{めだけ}女岳北東斜面では、地熱によると考えられる融雪域が新たに確認されました。
ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図4～5）

仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある遠望カメラ（東北地方整備局）では、噴気は観測されませんでした。

13日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力により実施した上空からの観測では、女岳北東斜面で地熱によると考えられる融雪域が新たに確認されました。

これ以外の噴気地熱域では、前回（2010年11月15日）の上空からの観測と比較して地表面温度分布¹⁾などに特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図2～3）

火山性地震は少ない状況が続いています。
火山性微動は観測されませんでした。



図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

（小さな白丸は気象庁観測点位置を示しています。
小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。）
（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成23年1月分）は平成23年2月8日に発表する予定です。

※資料は気象庁のデータその他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平20業複、第647号）。

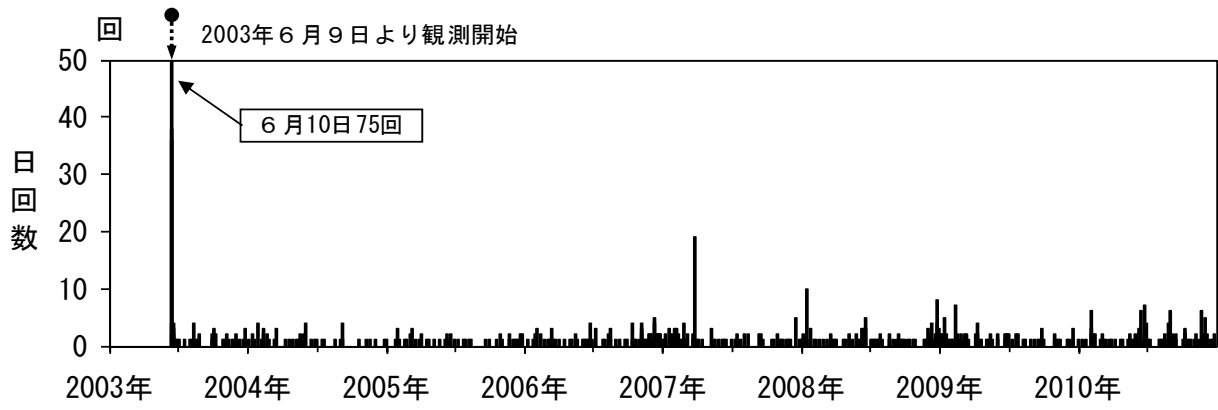


図 2※ 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003 年 6 月～2010 年 12 月）

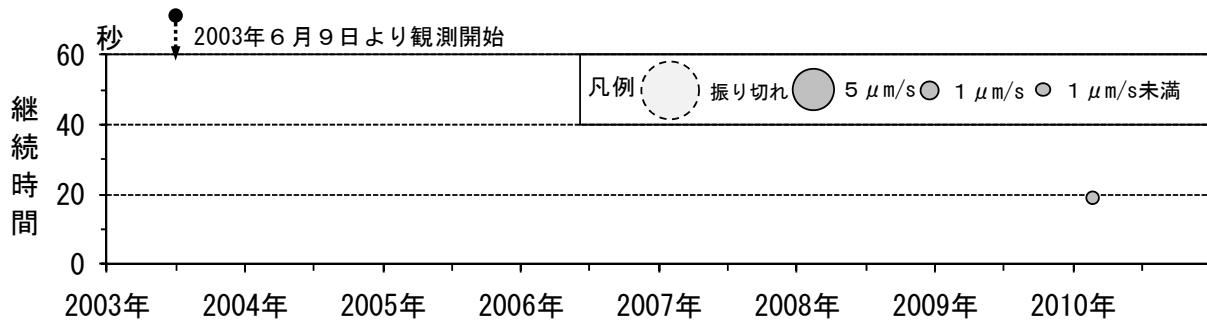


図 3※ 秋田駒ヶ岳 微動の継続時間と上下動最大振幅（2003 年 6 月～2010 年 12 月）
東北大学秋田駒ヶ岳観測点による。

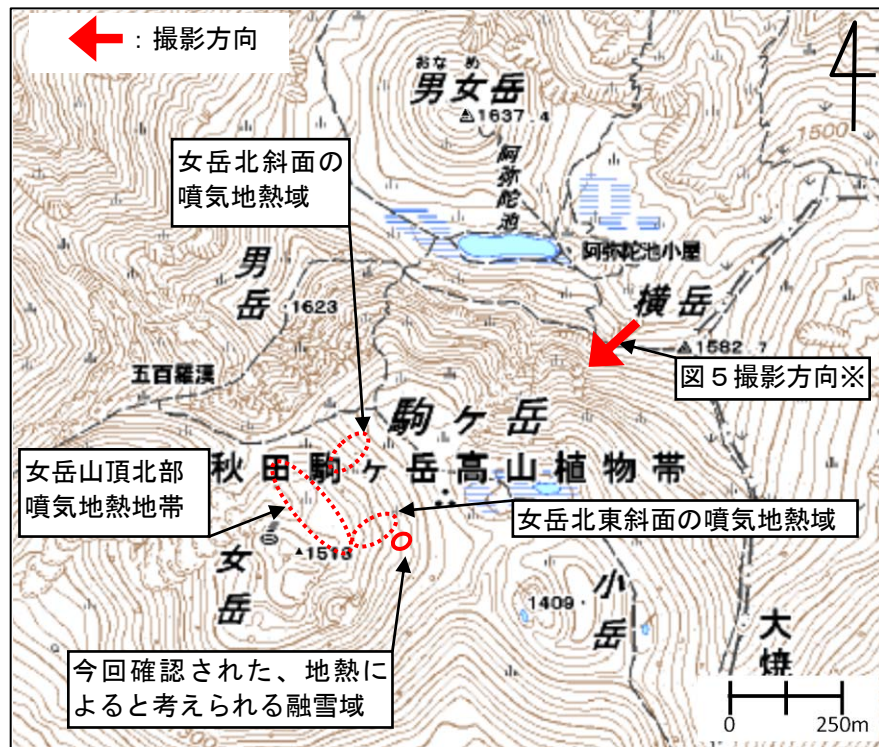


図 4 秋田駒ヶ岳 地形図と図 5 の撮影方向

※およその撮影方向を示しています。

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を複製しました。

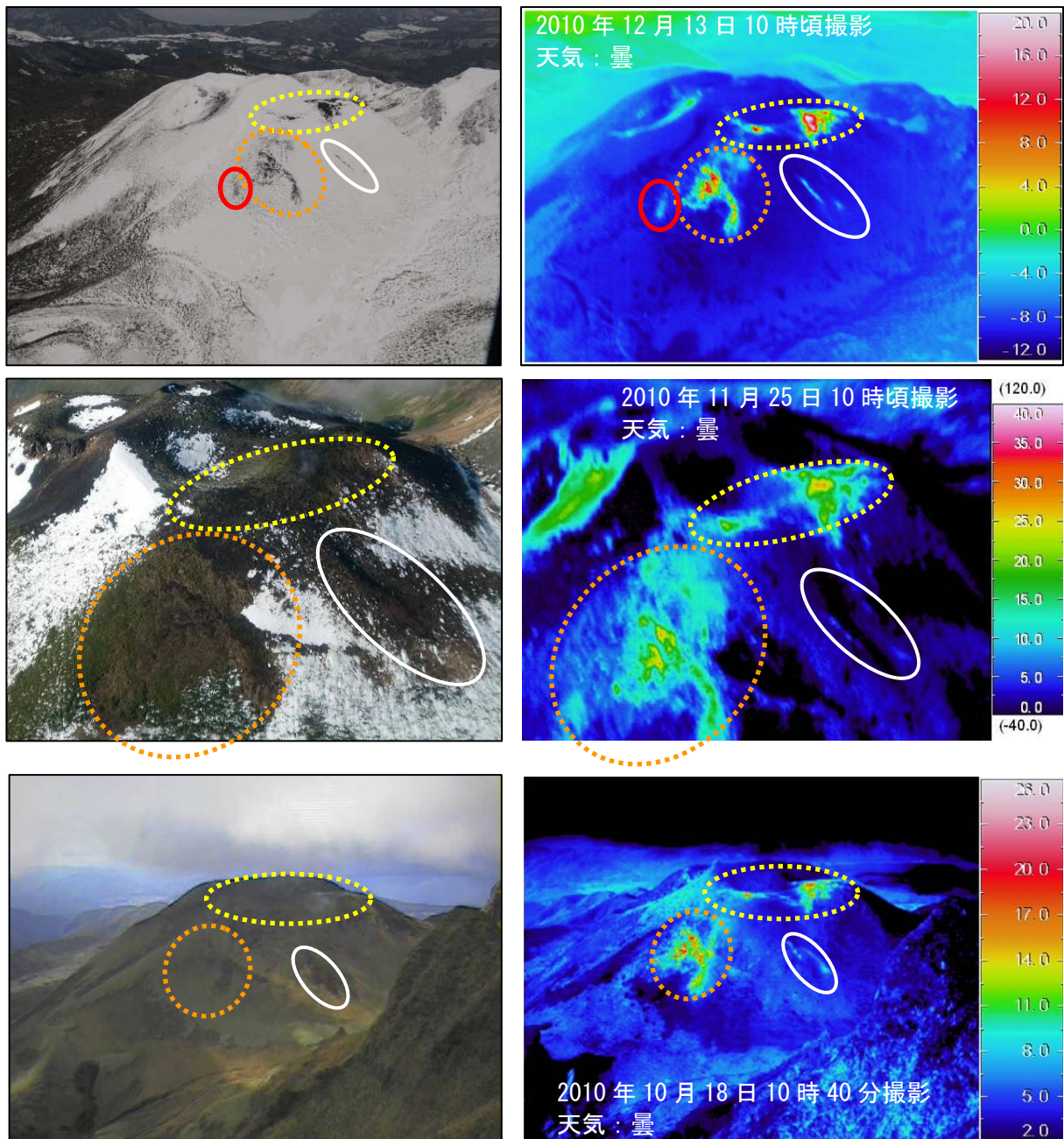


図5 秋田駒ヶ岳 女岳の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

上段：2010年12月13日撮影（陸上自衛隊の協力により上空から撮影）

中段：2010年11月25日撮影（岩手県の協力により上空から撮影）

下段：2010年10月18日撮影

- ・図の実線赤色囲みの領域が、今回新たに確認された地熱によると考えられる融雪域です。
- ・図の破線橙色囲みの領域が、2009年8月に確認され、2010年4月にかけて拡大が確認された北東斜面の噴気地熱域です。
- ・図の実線白色囲みの領域が、2010年9月24日に確認された北斜面の噴気地熱域です。
- ・図の破線黄色囲みの領域が、以前から地熱の高まりがみられる山頂北部の噴気地熱地帯です。